

富津市創生会議 会議録 (要旨)

1 会議の名称	第3回「富津市創生会議」
2 開催日時	平成27年9月9日(水) 午後2時～午後5時30分
3 開催場所	富津市役所5階 503・504会議室
4 審議等事項	1 富津市人口ビジョン2040素案について 2 総合戦略において講ずべき施策の基本的方向性について
5 出席者名	富津市創生会議委員(14名) 浅野 隆、稲村 重夫、岩沢 宏幸、櫛田 直也、小泉 敏、 鈴木 裕士、滝田 一馬、竹内 好美、武次 治幸、中澤 道男、 西田 美和子、早見 秀一、平野 都、森田 泰彰 事務局 副市長 高橋 恭市、総務部長 小泉 義行、 総務部参事 池本 幸司、企画課長 重城 祐、 企画課企画係長 中山 淳子、企画課主事 牧野 圭吾 企画課兼務職員 高橋 亮介、飯田 義洋、後藤 寿大、 荒木 宏仁、藤平 隆太郎 一般社団法人構想日本 伊藤 伸、原田 将大
6 公開又は非公開の別	公開・一部公開・非公開
7 非公開の理由	富津市情報公開条例第23条第 号に該当 (理由)
8 傍聴人数	6人(定員 20人)
9 所管課	総務部企画課企画係 電話 0439-80-1223
10 会議録(発言の内容)	別紙のとおり

第3回「富津市創生会議」会議録

発言者	発言内容
	<p>1 開会</p> <p>資料確認</p> <p>会議録署名人の指名</p> <p>第3回会議録の署名人は下記のとおり</p> <p>小泉委員 鈴木委員</p>
会長	市の地方創生について事務局から説明願う。
事務局	<p>市民委員会、事業仕分けの実施報告</p> <p>8月25日に締結した金融機関との連携協定について報告。</p> <p>9月2日のNHK「おはよう日本」で森田委員が栽培しているメロンの様子が報じられたことを報告。</p> <p>8月21日のNHKEテレ「はるさんの休日」で金谷を舞台にした市民出演のドラマが放映されたことを報告。</p>
鈴木委員	市民が本人役でドラマ出演し、地方の特色を表す企画となっており、金谷の合掌造りのカフェのマスターに声を掛けられて、我々も参加した。
	<p>2 議題</p> <p>(1) 富津市人口ビジョン2040の素案について</p>
事務局	(資料1、資料2、資料3の説明)
鈴木委員	市内の南北格差を感じており、地域ごとの動態がわかる細かい資料、例として富津・大佐和・天羽の3地区などの形になった資料はあるか。

事務局	<p>中学校区単位でのデータは現在調整中である。</p> <p>なお、統計書などで、現状の分析は可能。</p> <p>富津はあまり減少しないと見込まれるが、大佐和・天羽は今後とも減少すると見込まれる。</p>
西田委員	<p>地域別人口構成を性別や、年少人口・生産年齢人口・高齢人口等でまとめた人数構成マップがあると良い。</p> <p>同じ政策ではなく、どの年代のニーズがどこにあるのか、それによって濃淡をつける等、今後施策に反映できると思う。</p>
滝田委員	<p>社会動態で県外移動は 134 人の転入超過となっているが、これは市としては喜ばしい数字なのか確認したい。</p>
事務局	<p>県外からの転入者は年齢の高い人が出る人以上に多く入っており、転入超過で喜ばしいこと。しかし、トータルでは転出超過となっており、特に近隣 3 市との間で大きな転出超過であることが見えてくる。</p>
滝田委員	<p>大都市よりも近隣 3 市への転出を抑制する方が問題だと考えられる。</p> <p>近隣 3 市への流出を止める事と、県外の人に対して人口動態の施策はアプローチが違ってくると思う。</p>
早見委員	<p>ファミリー層を 5 年間毎に 300 人呼び込むことを目標に設定しているが、300 人/5 年とした根拠はあるのか。</p>
事務局	<p>この人口ビジョンを達成するには、ファミリー層が増えないと不可能であり、現実的な数値として 300 人と設定した。</p>

早見委員	素案の社会動態の規模から見て、60人/1年とした理由は何なのか。転入に対する転出の差と見ていいか。
事務局	ビジョン達成の条件として、5年で300人の転入と、若年層転出10%抑制は並行して考えている。その際、他の年齢層の転出と転入も今まで通り発生すると考えている。
中澤委員	<p>漠然とした認識を持っていたが、南北の人口格差や、近隣3市に対する転出減と県外に対する転入増が、今回の会議で詳しくわかった。</p> <p>この状態に上乘せをする場合、ベクトルが違う人達に同じ施策をしては残念な結果となると思う。</p> <p>2つの施策をどのように展開するか、市としては2つに分け別々に行うのか確認したい。</p>
事務局	これから議論していく内容であり、強みを生かし弱みを抑制する施策をそれぞれ行うことになると思う。市民から離れた施策はあり得ないので、議論を重ねたい。
櫛田委員	<p>ファミリー層の増加は長期的な人口維持に必要なことだが、富津市以外も同じような人口傾向になるのか、または富津市が特に取り組みに注力すれば解決することなのか。</p> <p>現在若い人が少ない富津と、多くなっている木更津では施策も変わってくると思う。その中で、近隣市の動きに対し、富津市独自の施策で解決するのか、それとも近隣市より更に頑張らなければいけないのか。</p>
事務局	富津市は高齢化が既に進んでおり、これから高齢者福祉に特に注力しなければいけない状況にはないと考えている。

	<p>3 市に負けているところを分析し、少しでも転出を抑制することで、このビジョンは達成できる。3 市と比較するのは今の時点で申し上げにくい。</p>
<p>会長</p>	<p>3 月まで君津にいたが、君津は子育て世代向けの施策が中心だった。他市も同じ傾向ではないか。</p>
<p>岩沢副会長</p>	<p>他の市町村でも同様に考えていることに対し、富津市としてどこに注力すべきか、他市に追随すべきか、富津市独自の方法があるかということだと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>近隣でも同じことをやっている。人口ビジョンを作成する際、高齢者が増えているのは現実であり、若年層の転入を考えていかなければならない。単純な推移で出た数字で持続可能な状態と言えるのかという話になる。もとは、国が 2060 年で人口 1 億人を維持するということを出発としている。</p>
<p>会長</p>	<p>他の自治体と比較して何をするかを議論していきたい。</p>
<p>榎田委員</p>	<p>富津地区は、市内では便利な地域と認識されており、人口も若干の増加傾向にある。一方で、都会から離れたところに魅力を感じて県外から天羽地区に来る人もいる。そういう人たちにとっては、さらに移動を考えると富津地区や他市が選択肢に上がると思う。</p> <p>そこで、はじめは自然が豊かな天羽地区などの南側に移住した人が、その後は便の良い富津地区に転居して市内に残る、という南北の差を利用する施策は考えているか。</p>
<p>事務局</p>	<p>今後の議論の観点としたい。</p>

<p>櫛田委員</p>	<p>都会の人が富津地区に来る動機がなかなか無いので、南から北へというイメージ作りをすると面白い。</p>
<p>滝田委員</p>	<p>近隣3市などに対する人口移動対策を中心に考えるという方向性で良いのか。</p> <p>若い人が転出している事、高齢者が転入している事、県外からの転入者が多い事を踏まえ、ファミリー層300人をどこからもってくるか考えることと、転入してくる年齢層にメスを入れることが必要だと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>県外について、転入の方が多いは強みであり、さらに強化する必要がある。転出抑制を考える上では近隣3市への対策がメインと考える。</p>
<p>滝田委員</p>	<p>富津市に他県から転入してきて、その後近隣3市への転出をアシストするという状況になってしまうともったいないし、そうなりかけているように思う。</p>
<p>櫛田委員</p>	<p>東京で仕事をしていると、富津のプロモーション活動を見ることがない。たまにマザー牧場が出るかどうか。過去・現在のプロモーションの状況はどのようになっているのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>観光プロモーションがメインだが、特段報道が大きく取り上げるほどの規模にはなっていない。公共がやるにはかなりの仕組みが必要で、限られた予算内でやっているのが実情である。</p>
<p>平野委員</p>	<p>年間60人のファミリー層転入は、意外と難しいのでは。今の市内の人でもファミリー層を増やす必要がある。結局、若い世代は奪い合いで、ある程度年齢の高い人が来るのは、福祉施策</p>

	<p>の関係で市としての強みにならない可能性もある。税金を払う層を増やすということであれば、市内の若い男性を中心に未婚の人が多くいることに対する施策が必要だと思う。</p>
鈴木委員	<p>人口が1万人減った時の市の予算や、公共施設の運営・維持費等のイメージはあるのか。</p>
事務局	<p>人口35,000人というのは未だ経験したことのないことであり、公共施設の存続やその中身について変革が求められる。また、全国の各自治体も今の行政サービスを維持するのは難しくなると思われるので、議論が必要である。</p> <p>持続可能な経済規模を維持するには年少人口の確保が大事だと考え、35,000人の条件を設定している。</p> <p>国の財政状況も悪く、地方交付税交付金が今まで通り分配されるとも限らない。</p> <p>今後は公共施設の維持の視点より、生活水準の維持を中心に考えていった方がいいのではないか。</p>
鈴木委員	<p>人口減少により、市の住民税がさらに高くなって人口がさらに流出することが考えられる。人口の数字が高い低いというより、財政状況を考えて計画的に進めないといけないのでは。</p>
事務局	<p>公共でできることが何か、次の経営改革の議論でできる。</p>
西田委員	<p>35,000人を維持する前提だが、それまでの25年間持つのかを検証して、こちらの会議と整合性を図ってほしい。また、想定外の変化や、財政状況から来るリスクも見た方がいい。</p>
事務局	<p>将来の人口減少を見越して財政計画を考えて収支均衡を図る</p>

	<p>のが経営改革である。また、人口減少を想定して公共施設の数をどうするかなどを今年度内の総合戦略とリンクさせていく方針である。</p> <p style="text-align: center;">(休憩)</p> <p>(2)総合戦略において講ずべき施策の基本的方向について</p> <p>(資料4、資料5、資料6、資料7の説明)</p>
事務局	
会長	<p>事務局の基本目標や方向の案が適当であるか議論いただき、その後具体的な施策に結び付けていきたい。</p>
稲村委員	<p>前回シティプロモーションを横軸にするという話があったが、シティプロモーションについて自分に当てはめて考えた。</p> <p>私は高校卒業後、一度は東京に転出し、24歳の時に再び転入した。先の転入・転出のグラフが示すとおり、10代で転出、20代で転入のケースになる。20代で転入してくる人は、私のようにもともと富津で育った人もいる。</p> <p>まだ若いうちに富津市の魅力を伝えていく、また東京に出ても富津に戻りたくなる、そうしたプロモーションも取り入れていく必要がある。</p> <p>今まで子供たちがターゲットになっていなかったのだから、生まれたところに帰ってくるファミリー層にプロモーションしていくべきだと思う。</p>
楯田委員	<p>市民委員が討議をするという意義はかなりあると思う。</p> <p>①市民が困っていることの情報得られる</p> <p>②市民意識を高め、市民が何かをするきっかけとなる</p> <p>この2つがあれば、国の政策に影響されることもなく、富津市</p>

事務局	<p>独自でやっていける。これを継続するか、がまず一つ。</p> <p>また、市民ができる事を挙げていただいたようだが、既にやっていると主張している市民がどのくらいいたのか、こうした座談会形式の集まりを定期的を開催できるかも、お聞きしたい。</p> <p>今後も市民委員会はテーマは別として定期開催していきたいと思っており、一通り終わってみたいとわからない。</p> <p>市民委員会と創生会議、両方の会議を同時進行で行っており、まだ深まっていない。</p> <p>皆さんがやって良かったというのが必要だと思う。</p>
構想日本	<p>市民委員会のコミュニティをテーマにした分科会のコーディネーターを務め感じたことは、市民ができることをやっている人は20名中半分以下で、地域によって大きく異なる。</p> <p>また転入した人は自分がどの自治会なのか、ごみステーションもわからない人もいた。</p> <p>分科会の中に元区長がおり、その方は移住者を連れて地域のお宅に挨拶回りに行くなどしたようだ。</p> <p>コミュニティの分科会の共通認識として、転入者も早く地域に溶け込んでほしいという思いがある。</p>
櫛田委員	<p>市民を刺激して能動的に動いていただけたということが市民委員会を通してわかった。</p> <p>今まで市で取り組んでいる実態が市民に伝わっていなかったという認識は印象としてあるか。</p>
構想日本	<p>コミュニティの分科会は知らない人が多かった。</p> <p>自分の地域だけが自然体という認識があり、市民委員会で初めて知ることも多かったようだ。</p>

<p>櫛田委員</p>	<p>市民の要望を施策に反映できるようなシステムを作るべきだと考える。</p> <p>ホームページや広報等の拡散では不十分なので、市民が能動的に情報発信できる仕組みを戦略に入れるべき。</p> <p>市民が決める事も出来るし、市民が結婚・子育て等のイメージを持てることが重要だと思う。</p> <p>流山市の「まちゼミ」の例では、経営者等が市民に対してセミナーを行い、自分たちや地域の事を話す。そこで雇用を生む、子育てのゼミが行われて主婦が集まるなどすれば、市の事を知るきっかけになる。</p> <p>こうした方法で、企画を市民から提供することも可能だ。</p>
<p>会長</p>	<p>全体を網羅する仕組みとして考えてもよい。</p>
<p>小泉委員</p>	<p>私が思う問題は、新しい住民が、隣組の行事や作業に参加できず困っている人が多い。特に勤め人は参加が難しく、出にくくなっている。</p> <p>また昔からのしきたりなどで、隣組などに入りづらい等のことがあるので、改革が必要だと思う。</p>
<p>鈴木委員</p>	<p>意見整理シートを見ると、やる事が多いという印象だ。</p> <p>金谷の人間として思うのは、全てはできないし、全部やる必要も無いと感じる。地元でも住民が多くので取り組みをしていて忙しい。</p> <p>短期間で成果が出る事も含めて、ひとつシンボルを絞り、地域の連帯感を強めながら広めていくことが必要だと思う。</p> <p>何でも市が行うのではなく、地域の自治会・NPO・ボランティア等への支援・サポートを市ができないか。民間の活力を公益活動に取り入れる形で仕組みの構築を検討していただきたい。</p>

滝田委員	<p>稲村委員の意見と同様、子供世代に富津市の良さを伝えることが一番大事だと思う。</p> <p>私の関わっている、起業家を支援する県主催のプロジェクト「地域クラウド交流会」のプレゼンテーションで、ある会場では高校生が大人達を負かして優勝した。</p> <p>内容は「Youtube」を利用して、子供たちに魅力発信をさせるもので、子供たちがそうした取り組みで地域の魅力を理解すれば、大学進学等で県外に転出しても戻ってくるであろう。富津市を「好きになる」の方法として、教育分野から入るのもいいと思う。</p> <p>また、まちづくりは民間主導で進める仕組みを作った方がいいと思う。</p> <p>地域の生活を評価・共有し、強みをいかして、直近の課題を見つけてそれぞれの地域ごとに取り組むべきだと思う。</p>
竹内委員	<p>子供に関わることとして、「今までやっている事を面倒だがとりあえずやる」、というのが既存の市のやり方だと感じる。</p> <p>私が子育てをする中で、本当に役に立ったのは、お母さんたちが作ったサークルだ。私も所属し、お母さん同士で頭を悩ませながらいろいろな活動をしていた。そういうところに市のサポートがあればすごくいいと感じる。</p> <p>市民の意見を聞ける場ができたので、より市民レベルの団体が活性化すればと思う。今年の市民花火大会にしても、市民が自発的に活動するエネルギーは凄いなと思ったし、これからは市民のやりたい事を市がサポートする仕組みがあることが、一番動きが出ると思う。</p>
中澤委員	<p>市民がやりたい事を市がサポートすることを盛り込むことと、市議会の改革も総合戦略に入れてもらいたい。</p>

西田委員	<p>近隣市に比べて定員が多いという意見もあったし、市議会議員選挙が地域代表を出す選挙のようになっている。同じ利益を地域ごとに求めているため、市全体の発展が阻害されているように思う。</p> <p>45,000人の市の割には市民活動が活発ではなく、市全体の風通しが悪いと思う。これからは市民の意見を取り入れてくる市としてアピールできればと思う。</p> <p>プロモーションについて、県外をターゲットとし、意識する視点は「近隣との比較」、とした対外発信をすべきだと思う。</p> <p>自己理解を深めること、教育・啓発等を通して、難しいかもしれませんが、市民自ら課題を見出していければと思う。</p> <p>自分達に対するプロモーションと、外向きのプロモーション、でメリハリをつけてやるべきだと思う。</p> <p>基本目標案のうち、出生率を上げる施策は、行政主導でやりやすいと思う。移住環境・仕事・地域好感度は、いろいろな要素が絡むのでまとめてやるものだと思う。人口直結策とそれに付随する対策で区分けが必要だと思う。</p> <p>雇用創出については、住みたいけれど働く場所がないという人が多いので、行政の誘致策が必要だ。例えば住んでくれなくても、日中市内で働く人が増えればお金を落としてくれる。人口を増やすのであれば、住みやすさや交通の整備が必要で、昼間働きに来ても夜はいないというケースも考えられる。企業誘致は、財政施策としてだけでなく、人口施策とセットで捉え、思いっきり富津市エゴと言える施策が必要だ。</p> <p>私の勤務地に関しては、日中1,000人ほど働いているが、富津市民は少ない。それが何故か考える必要がある。職場内でも、単身世帯はいても、結婚を機に出ていく人が多い。</p>
------	--

早見委員	<p>3回の市民委員会でたたき台ができたところだが、基本目標案に関しては、文言の修正にとどめるのがいいと思う。</p> <p>基本目標は大枠として捉えて、今はその右にある方向策の項目を検討することが必要だと思う。</p>
事務局	<p>目指す方向は共通だとしても、人口ビジョンは25年分、総合戦略は5年分のものである。基本目標案は事務局で転記したものである。</p>
会長	<p>市民が行政に参加できないことや、シティプロモーションについて、市民から出た情報の共有・活用ができる仕組みを全体像に盛り込むことで事務局に整理してもらいたい。</p> <p>具体案については何かあるか。</p>
平野委員	<p>各項目について、行動目標を立て、どの団体が行い、リーダーが誰であるかなど具体化すべきだと思う。また、市民を巻き込むのであれば、市民を構成員に入れるべきだと思う。具体的な部分としては、出会いの場としての結婚相談などは若い人にとって参加しにくいので、地区でやれるようになってほしい。また、子育ては、近隣市の支援センターに富津市から来ている例もある。公民館では他のサークルもいるので部屋を予約しにくいと聞いている。図書館も同様に近隣市に行くケースが見られる。</p> <p>また、空き家の活用と具体的な各物件の情報発信や、行事を通じた地域の活性化等、取り組んでほしいと思う。</p>
森田委員	<p>農家の私としては、新規就農者を増やしていければと思う。市内の農家の仲間は、今が出産ラッシュで、やはり農業で安定すれば、富津市にずっと住むというのは実感している。</p>

	<p>また新しい住民を増やすこともできる。しかし、新規就農のハードルが高いので、難しい部分がある。</p> <p>都内のように、新規就農しやすい都市として、就農に当たっての下限面積要件を下げるべきだと思う。</p> <p>また新規就農者に対して年間 150 万円の補助金が支給されるなど、国が優遇しているので、現在は農家を始めるチャンスだと思う。更に、今の農政部局は協力的でパワーがあるので、まちづくりの面から農政部局とともに新規就農者の支援をすべきだ。</p>
<p>岩沢副会長</p>	<p>市民委員会でさまざまなキーワードが出ているので、それを具体的な施策案にも入れると作りやすいと思う。</p> <p>農業や漁業は富津市の強みなので、支援を生かしていく必要があると思う。また待機児童ゼロも強みだ。</p> <p>しかし、この案を全部やるにはマンパワーが不足しており、どうしても近隣市の方が有利になる。</p> <p>また、転出が多い世代に関しては、10代は就職などで都内などへ転出、20代は結婚などで近隣市へ転出していると考えられるが、その理由をしっかりと把握しないと対策は難しいと思う。聞き取り調査などである程度仮説を立て、どの対策が有効か確認する必要がある。</p> <p>また、南地区は農業をやりたい人やリタイア組をターゲットにする、北地区は若いファミリー層をターゲットにすることを富津市として考える必要があると思う。</p>
<p>会長</p>	<p>住民票を移動するときに理由等を聞くとまとまったデータになるのではないか。</p>
<p>浅野委員</p>	<p>富津市も強みがあって、その一番は自然であり観光である。最</p>

櫛田委員

近は農業に力が入っている。強いところをより強くということで、私は観光と農業に力を入れるべきだと思う。

また、我々が独自にアンケート調査をすると、自然・やすらぎ・落ち着き・治安がいい等といったことが評価されている。これらも基本目標案に入れるべきだと思う。

銀行としていろんな事業主からよく耳にするのは、「雇いたいのに雇う人が来ない」という声がある。やはり、住環境が難しいとのことで、それが良ければ地方に声かけすればいくらでも富津に住むのではないかと思う。

「地方創生」なのだから、新しいものをクリエイトして発信していこう。

シティプロモーションの中で、最近は、「まだ東京に住んでいるのか？」と IT 業界で言われる。これは 30 代が中心で、地方で田舎暮らしや子育てを楽しみながらたまに東京行くというのが、これからのライフスタイルだと言っている。そういう人達にとって富津はピッタリの場所だと思う。

中でも、インフルエンサー（=ネットの世界などで影響力のある人）が一言発するだけで高い効果が見込める。

例えば IT 出身の人をターゲットにして、IT の仕事をしながら農業を行うなど、インフルエンサーの琴線に触れるようなプロモーションをして、実際に来てもらい、魅力発信をしてもらうのがプロモーションの一つだと思う。

私個人でも、そうした取り組みをしており、3 つ情報サイトを立ち上げ、地域のネットに詳しい人同士を結びつける活動を行っている。こうしたプロモーションがまず一つ。

また、先ほどから議題に出ている農業は、これからの自動化で仕事がなくなっていく中で未来を与える仕事である。敷居の高さについては、農漁業の研修ができる若者向けの施設を、既存

の施設を活用して作ることで、若い人が学んだあと東京に行き、また彼らが戻ってくるきっかけを作るのもいいと思う。

地域活動の促進としては、姉妹都市との交流をもっと生かすべきだと考える。これからは国際化・英語教育の時代なので、英語教師を支援して、子どもたちに無料で教育をする、協会で安価な講座ができる事の周知をすること。

どの団体もこうした宣伝・周知がしたいという流れがあるが、一番不足しているところであり、私はそこに目をつけて活動し、具現化に取り組んでいる。

他にも、毎月市役所の会議室を借りていろんな人に来てもらう交流の場「あんでも広場」や、「富津市.COM」というホームページを開設して富津のいい事を集めて掲載するなど、様々な企画を提案等している。このホームページはまだ宣伝していませんので、時期が来たら東京の仲間に伝える等の拡散も考えている。

また、若手の起業家支援も必要だと思う。その中で、「地域活性化等に関する協定」はいいと思う。これを活用して、特に若手世代をサポートして定住してもらうという宣伝はできると思う。

今回のたたき台では、民間でできること（10項目程度）と、行政でしかできないことは分かれている。民間でやるにも連携が必要で、企画人が必要である。先のインフルエンサーとともに、企画できる若い世代に絞って集める事を戦略に組み込むと、色々できるのではというのが私の一つの結論である。

そのほか、どこでも大きく成り立つ事業としては建築業がある。富津は山と海があり、山で木を植林し、木はミネラルを作り出し、海に美味しい魚が採れる栄養を供給している。山と海が一体となり、山木で家を建てる地産地消をPRして、同時に海産物も美味しくなるという構造が宮崎にある。

	<p>これらができるシンクタンク等の協力も必要になるので、市がそれを組織できればかなりいいものになると思う。</p> <p>鈴木委員</p> <p>私たちが、地域で何ができているかを考えたところ、既に出会い・雇用・商店街・住環境・空き家あっせん・地域行事等を地域住民、団体、企業等と連携し行っている。民間主導なので、行政には民活の活用ということで何らかの形で支援いただきたい。</p> <p>人口減少を迎える日本の国際化はますます進むと思う。金谷でも数年前より海外との交流をしている。これらの活動は募金をお願いするなどして自助努力で実現できるよう取り組んでいる。</p> <p>国際化の土台として小さいころから国際交流を行うことはこれからの日本にとって必要だと考える。こうした地域活動に関して、行政からの後押しや、助成金の案内、ふるさと納税を充ててもらふなどの支援があればと思う。館山市は、青木繁が「海の幸」を描いた時に滞在していた古民家を NPO が修復保存するのにふるさと納税の対象とし、3 千万円が集まったと聞いている。富津市のふるさと納税もリターンの商品にこだわりすぎるのではなく、使い道を具体的に掲げ窓口を増やしてほしい。</p>
<p>櫛田委員</p>	<p>全てが行政主導ではなく、すでに民間でやっている企画に乗るか後押しいただければ、市の財政的な負担が少ない形で実現でき、市民参画の向上にも繋がる。</p> <p>人間の自己実現を満たす仕組みがあればと思う。</p> <p>ボランティアの推進の観点から、市で活躍した人を評価する制度を取り入れるべきだ。地域に貢献することで、地域への愛着を生み、いい意味での競争も生まれる。</p> <p>また、IT 技術によるコミュニケーションの観点で見ると、富津</p>

	<p>はインターネットに接続しやすい環境で、過疎化している地域をネットでつなぎやすいのは強みだ。但し、高齢の方いきなり IT 機器を与えても使うことができないし、年少世代が SNS で犯罪に巻き込まれるケースも見られる。それに対し、親子で取り組む教育活動を行い、講師は若い世代に来てもらうのが一つの手だと思う。お年寄りにも講座を開いて、情報を得る手段を教えるのもいいと思う。これによって雇用やシティプロモーションにもなると思う。</p>
小泉委員	<p>漁業の場合は、近隣地区に住所がないと就漁できないこともあり、法令が変わるなどしない限り、一般の人は参入が難しい。従業員として就労することならできる。</p>
西田委員	<p>研修などは可能か。</p>
小泉委員	<p>研修後に、一旦他地域へ出て、戻るというやり方はできると思う。一方で、農業もそれなりの規模がないと大変だと聞く。やはり、安定した収入が必要だと思う。また、市職員で富津市在住でない方にその理由も聞きたい。</p>
森田委員	<p>農業の新規就農は国や県から補助を受けられるので、足場（耕作場所）だけ作って上げれば生業としていくことも可能であり、補助金制度のある今が就農のチャンスだ。</p>
櫛田委員	<p>今後の世代は、自分で物事を考える事ができる／できないという傾向が極端になっているが、富津市で道筋を作って上げて、自分でいろいろ学ぶ場を提供するのもよい。</p>
早見委員	<p>私は不動産業なので、空き家を調査し、所有者の意向、建物の</p>

<p>浅野委員</p>	<p>状態、地域等を整理してマトリクス化したらよいと思う。</p> <p>銀行員の立場として、私も空き家に関して融資できるような仕組みができると良いと思う。</p> <p>また、地域のグルメなどを、全国・世界に向けて発信することも必要だと考えている。例えば、幕張メッセのイベント等で富津市のブースを設けて実際に食べてもらい、オール富津で外部にPRすると良いのでは。</p>
<p>会長</p>	<p>他に議論がある委員は、直接事務局へ。</p> <p>(3)その他</p>
<p>事務局</p>	<p>第4回「富津市創生会議」の開催について</p> <p>10月14日(水) 14時から503会議室にて開催する。</p> <p>(終了時刻 17:30)</p>

以上